

アソカ講話025

テーマ「認知症ケアについて」

ある新聞のコラム次のような言葉が紹介されていました。

「職員にやさしくあれ、と言うと、行き詰ってしまう。感性ではなく、技術としての優しさが必要」という言葉です。

技術としての優しさって何だろうか。皆さんはどう思いますか？

私達が他者に対して優しくなれる時はどんな時でしょう。反対に優しくなれない時はどんな時でしょう。一般的に、相手のことが理解できない時、そして相手に理解されない時に、人は優しくなるのが難しいようですね。

認知症ケアの困難さはコミュニケーションの難しさだとも言われています。相手の思いや行動が分からない、自分の言葉が伝わらない、そのもどかしさやどう対応していいか分からない不安から一杯一杯になる。

職員にやさしくあれ、ということは簡単ですが、人は理解できない理不尽さには優しくなれないのが普通です。認知症の方の様々な行動障害の理由や背景が分かり、適切な対応がとれるようになると優しくなれるのかもしれませんがね。「技術としての優しさ」とはそのようなことを意味しているのでしょうか。優しくなるためには精神論だけでなく、知識や技術、トレーニングが必要ということですね。